

AO
GROUP

株 式 会 社 エ ー ゼ ロ グ ル ー プ

説 明 資 料

2026年1月15日



西栗倉森の学校

+



地域経済を醸す

2023年4月1日合併

「株式会社エーゼログループ」

として新たに船出

会社概要

代表取締役CEO：牧 大介（まき・だいすけ）

1974年生まれ。京都府宇治市出身。京都大学大学院農学研究科卒業後、民間のシンクタンクを経て2005年に株式会社アミタ持続可能経済研究所の設立に参画。森林・林業、山村に関わる新規事業の企画・プロデュースなどを各地で手掛けてきた。2009年に株式会社西栗倉・森の学校を設立し代表取締役。2015年10月にエーゼロ株式会社を設立し代表取締役に就任。2023年4月には森の学校とエーゼロを合併させ株式会社エーゼログループを発足し、代表取締役CEOに就任。



資本金：6,400万円（2025年1月31日現在）

拠点地域：岡山県英田郡西栗倉村（本社）、北海道厚真町、滋賀県高島市、鹿児島県錦江町

メンバー総数：146名（スタッフ114名（社員、業務委託、パートなど）、就労支援施設利用者19名、役員13名）

※100%子会社である株式会社 ネ、株式会社A0AIを含む

※2025年4月1日現在

グループ※売り上げ合計：約10億円 ※株式会社ネも含む



未来の
里山をつくる

拠点紹介



岡山県西栗倉村

人口約1300人の村。
村の面積の95%を森林が占める同村は
2004年市町村合併せずに村として存続す
ることを決めました。2007年より「百年
の森林（もり）構想」を掲げ、森林との
共生に向け歩んでいます。
（2009年に事業開始）



北海道厚真町

人口約4,400人の町。
150年以上前入植者が開拓し、深い森を伐
り拓き、水田に置き換えながら形作って
きました。
（2016年より拠点設立、事業開始）



滋賀県高島市

人口約5万人。周辺の隣県との分水嶺にか
けて広がる森林を基盤とする林業、山と
湖に挟まれた平野で営まれる農業、そし
て琵琶湖の水産業が伝統的に受け継がれ
ています。
（2016年より拠点設立、事業開始）



鹿児島県錦江町

人口約7000人。2005年に大根占町及び田
代町が合併し生まれた町です。町内から
は縄文時代の遺跡も発掘されていること
から、はるか昔から人がこの場所で営み
を続けていることがわかります。
（2023年より拠点設立、事業開始）

事業部編成

福祉事業

(エーゼロ100%出資子会社「株式会社ネ」)

障がい者福祉、高齢者福祉

地域創発研究所

起業支援、新規事業創出支援、
移住・定着支援、企業研修

たねラボ

事業開発

ビオ田んぼプロジェクト 等

自然資本事業本部

鰻加工、ジビエ肉加工、いちご生産、木材加工
レストラン、視察研修、ふるさと納税地域事務局 等

養蜂チーム（リムルベーン）

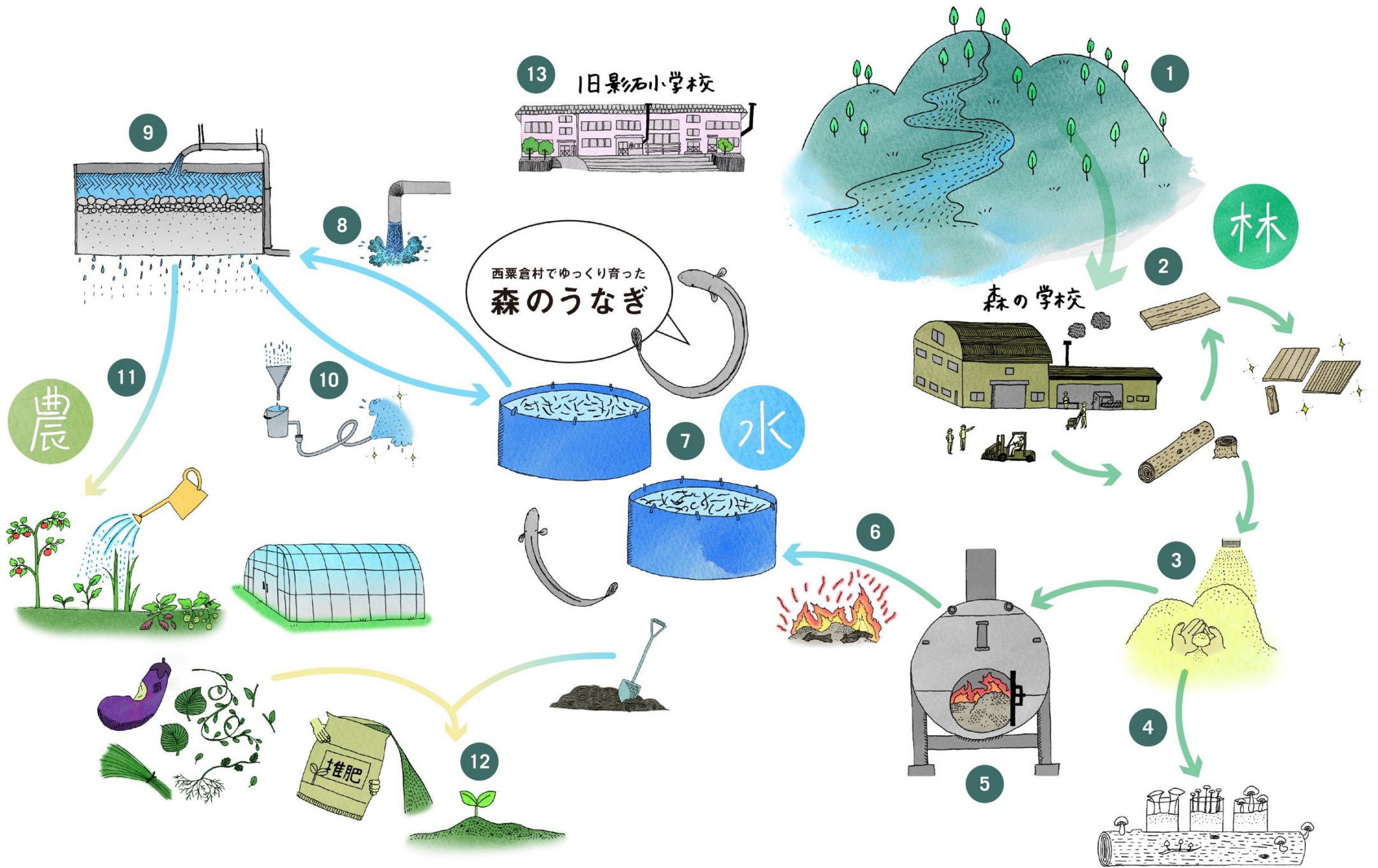
養蜂
蜂蜜の商品開発・加工・販売

経営管理部

労務・経理・財務

不動産管理

採用・広報





2009年10月～

株式会社西栗倉・森の学校を設立。
西栗倉村雇用対策協議会から移住・起業支援事業を受け継ぐとともに、木材・加工流通事業を立ち上げる。

西栗倉村について

西栗倉村百年の森林構想

西栗倉の 森林の 100年

現在の西栗倉村の森林

50年後の森林。

私たちが目指すのは、
これから50年後の森林。

1年

元々林業で成り立っていた
この地で、約50年前に、子
や孫のために、苗木を植え
た。

25年

植林した苗木がすくすくと
育って行きます。密集した
木々は、上へ上へとその長
さをのばしていきます。

50年

ある程度成長した木々の間
伐を行い、地面に日光が届
くよう、森の密度を調整し
ていきます。

75年

木々の幹も太くなり根もは
り、保水林となり、したく
さなども経てきます。少し
づつ鳥も棲む始めます。

100年

しっかりと山に根ざし、木
の通り道として川も自然に
つくられます。山の動物た
ちのすみかとしても利用さ
れています。

スプーン1本から、ビル1棟まで。まるごとFSC®認証木材を届けます。

- ・住宅300棟分対応のFSC®認証木材の供給体制を確立。
- ・通常材納入実績から大規模建築でも全てFSC®認証材での供給が可能に。



15年の中で自社生産機能、協業先が広がり構造材、合板、内装材、家具までを一括準備可能に。
一括準備が行えることで認証材の"調達"に対するハードルを下げたい。

2028年までに自社規格品、全てをFSC®認証製品化へ。

FSC®認証製品を“当たり前”に扱える企業に。



フローリング



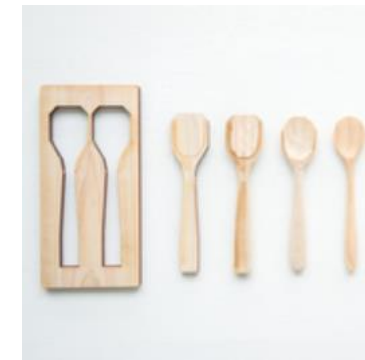
ユカハリタイル



名刺入れ



家具シリーズ



ヒトデマキット

チャレンジから見えてきた課題

2023年に単身用住宅5棟をプロジェクト認証で建設、現在新に世帯向け住宅2棟で認証取得予定で建設中ですがこちらと前出のリリースから問い合わせを頂く中でより濃く感じるのはエンドユーザーさん、施主さんへの価値提供です。

答えの難しいFSCを使う利用、またFSCの下位概念、並列概念、上位概念をもってどのように価値提供出来るのか。

こちらにおられる皆さんと考えながら進むことが出来ると幸いです。

また西粟倉というフィールドを活かしてFSCの価値を表現することも出来ると感じておりますので是非一度御来村お願い致します。